

特集 彫刻の魅力に触れてみませんか



①岩村通俊の像
(佐藤忠良)

彫刻鑑賞のための用語解説
ブロンズ：彫刻の材料の一つで銅が主成分の合金。他には石、セメント、木なども材料として使われる。
モニュマン：記念碑。依頼者の制作趣旨から彫刻家がイメージを膨らませて制作する。
トルソ：頭部や手足のない作品。顔の表情や手足の動きにだけ関心がいかないよう、意図的に人体の一部を省略している。
テラコッタ：粘土から作る素焼きの焼き物。

宮の森 から円山までのエリアには、大倉山や円山、宮の森緑地など緑が豊富に存在しています。
 ここには、自然が織り成す四季折々の景色に解け込むように、札幌ゆかりの彫刻家による作品が点在しています(下図・写真参照)。
 色づく山々を眺めながら、野外彫刻を探して回ると、中央区の新たな一面が発見できるかもしれません。



②開拓判官島義勇の像
(宮地寅彦)

彫刻には裸体の像が多くあります。これは、衣服を着せないことで流行に左右されない時代を超えた人体の美しさを表現しようとしています。みなさんも、彫刻に込められたメッセージを感じながら彫刻鑑賞を楽しんではいかがでしょうか。



「ちゅうおう区ウオーキングマップ」(右写真参照)でも「彫刻の街とジャンプのルーツをたずねるコース」として、彫刻美術館周辺が紹介されています。そのほかにも一年を通じて楽しめる区内の身近な散策コースが紹介されています。こちらもぜひご覧ください。



③鳥を抱く女
(本郷新)



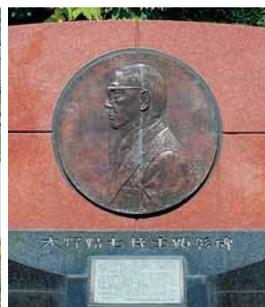
④太陽の母子
(本郷新)



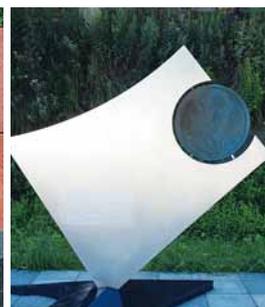
⑤鳥を抱く女
(本郷新)



⑥奏でる乙女
(本郷新)



⑦大野精七博士
顕彰碑 (佐藤忠良)



⑧大倉喜七郎男爵
顕彰碑 (作者不明)



⑨南部忠平顕彰碑
(本郷新)



⑩よいこ つよいこ
やまのうたけ お
(山内壮夫)